

**令和元年 12 月 6 日**  
**第 5 回 湯沢町総合戦略推進会議 要旨**

1. 座長挨拶（鷺見座長）

お忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。本日は、答申案をまとめたのち、町長に答申することになっているが、答申案をまとめる時間はあるので、引き続き意見を活発にいただきたいと思っている。本日もよろしくお願い申し上げます。

2. 説明

(1) 湯沢町総合戦略答申案について 資料 1・2（富沢課長）

【基本目標 1】（資料 1 1p）  
（質疑等）

■林副座長

この近隣だと軽井沢が別荘を利用したワーケーションを行っていると思う。ホテルの部屋を利用している事例もあるようだ。湯沢の場合は、インキュベーションセンターの方で「ワーク」、「バケーション」については町内の宿泊施設等を利用するという事はいいアイデアだと思っている。

■奥田委員

大源太で以前 IT 企業の方とワーケーションを実際に行ったが、非常に好評だったので、そういった施設が利用できるなら有意義なものにあると思う。逆にクリエイターの方は、ネット環境がないことが魅力になることもあるので、ネット環境とネットがない環境の双方を整備していくと企業も魅力的に見えると思う。

■林副座長

宿泊施設側のネット環境の整備なども課題になるだろう。

【基本目標2】(資料1 2～3p)  
(質疑等)

■山口委員

インターンシップの受け入れ企業は現在どのくらいか？

■林副座長

昨年より1社増えて、11社になった。1～2年生が来てくれれば嬉しいが、なかなか難しい。3年生はほとんど来ることはないのが現状。

■綿貫委員

インターンシップの期間は短い気がするが？

■林副座長

学生が希望する期間と、企業の受け入れ期間によって決めている。

■綿貫委員

欧米のインターンシップは、通常もっと期間が長く、本格的に就職に直結するものだと思う。最終目標が就労ならば、採用直結という名目で、もう少し期間を長くしたり、学生を受け入れるシステムを構築したりしたほうが良いと考える。

■鷺見座長

確かに日本のインターンシップは、就労のためというより、学生生活の糧とするためという目的が一般的であるし、「お試し」という色が強い。

■林副座長

インターンシップを採用の必須条件に加えている企業もあるが、学生のスケジュールと企業の受け入れ体制がマッチしている企業が少ないことは確かだと思う。社員寮があるところは別だが、それ以外だと、宿泊費は自費になってしまう。

■鷺見座長

この件に関して、皆様のご了解をいただき、ひとまずはこのような活動指標とし、段階的に宿泊費の問題や受け入れ体制の整備を行っていき、成果指標を追求していくものとしたい。

【基本目標3】（資料1 4～5p）  
（質疑等）

■林副座長

インパクトがあるだけでなく、利用を検討する方がわかりやすいことが大切だと考える。

■鷺見座長

わかりやすく、インパクトのある施策という旨に記載があるので、このままでもよいと考える。事務局は随時、施策の見直しを行っていただきたい。

【基本目標4】（資料1 6～7p）  
（質疑等）

■奥田委員

湯沢町は子どもを育てる環境は整っていると思うが、子どもを産む環境は乏しいと感じている。それらの対策として何か議論がなされたか？

■鷺見座長

樋口委員からもご指摘いただいたが、非常に不安だという意見を伺っている。長期的に解決していくべき課題として共有していきたい。

■樋口委員

出産となると、魚沼基幹病院、十日町市のタカキ医院、苗場の方は、群馬県の利根まで通っていると聞く。

■弦巻委員

結局、妊娠している方にとって一番ネックになっているのは、こういった点なのか？

■樋口委員

移動が一番ネックだと思う。移動には、一時間かかるのでその間に破水するパターンも聞いたことがある。自宅に一人でいる時も湯沢町は妊娠中のタクシー制度はないので結局家族を呼ばないといけないし、その後の移動も不安。その移動の際に助産師さんが出張サービスをしてくれるという制度があればあり

がたいと感じている。

■事務局 高橋部長

今の話を伺うと、金銭面というより、出産に対する不安がネックになっていると思うので、その妊娠～出産にかかる不安を少しでもやわらげるような制度を検討できたらいいと考える。

【基本目標5】(資料1 8～9p)

質疑なし

【基本目標6】(資料1 10p)

(質疑等)

■林副座長

南魚沼市のC C R Cについての活動を最近全く聞かないが、進展はあるのか？

■事務局 富沢課長

当方にも、目立った活動実績等は届いていない。

■鷲見座長

定住自立圏等で、健康な高齢者の活動を連携して支援したり、湯沢町でスキーや温泉を楽しんでいただくということも想定できるのでは？

■事務局 富沢課長

当町の場合、そういった元気なシニア層はこちらが意図せずとも増加傾向にあるため、特に活動のすそ野を広げる必要はないと感じている。

### 3. その他

#### 今後のスケジュール

- ①12月中旬 湯沢町地方創生推進本部（庁内）にて答申内容を審議
- ②12月中旬 湯沢町議会議員全員協議会にて案を説明
- ③1月上旬 パブリックコメント開始（30日間）
- ④2月中旬 湯沢町総合戦略推進本部（庁内）にて戦略確定
- ⑤3月中旬 湯沢町議会議員全員協議会にて戦略を説明
- ⑥3月下旬 湯沢町総合戦略推進会議にて戦略を説明